

－県道下時枝今津停車場線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

古 田 遺 跡

2 0 0 3

大分県教育委員会

序 文

本書は、県教育委員会が大分県中津土木事務所の依頼を受けて実施した、県道下時枝今津停車場線道路改良事業に伴う古田遺跡の発掘調査報告書です。

中津市は大分県の北西端に位置し、国史跡福沢諭吉旧居をはじめ、中津城や植野貝塚などの多くの文化財が所在しています。

今回調査した古田遺跡は、中津市の東端部を流れる五十石川沿いにあり、河口から2キロメートル上流の低丘陵縁辺部に位置しています。発掘調査の結果、土坑5基が検出され、うち2基から縄文時代後期の土器や黒曜石片が検出されました。今回の調査区は狭い範囲ですが、遺跡は低丘陵上に広く展開するものと考えられます。

弥生時代の遺跡は、大分県北部の周防灘に面する平野部で数多く確認されていますが、縄文時代の遺跡は非常に少なく、当地における縄文人の活動の様子を知るうえで非常に貴重な調査となりました。

本書が地域の先人の生活を理解する資料として、また、埋蔵文化財に対する保護・啓発、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

終わりに、この発掘調査に多大な御支援と御協力をいただきました関係各位に対し、衷心から感謝申し上げます。

平成15年3月31日

大分県教育委員会教育長

石川 公一

例 言

1. 本書は、平成13年度に実施された中津市大字植野所在の古田遺跡発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、県道下時校今津停車場線道路改良事業に伴い、中津土木事務所の委託により大分県教育委員会が実施したものである。また、平成14年度には発掘調査報告書作成に向けての整理作業を行った。
3. 遺構の実測及び写真は文化課職員が行い、空撮はスカイサーベイに委託した。
4. 遺物実測については文化財資料室整理補佐員が行った。
5. 遺跡出土遺物並びに遺構・遺物の実測図は大分県教育委員会文化課文化財資料室に保管している。
6. 本書の執筆・編集は、井川泰成が担当した。

目 次

第Ⅰ章	はじめに	
1.	調査にいたる経緯	1
2.	調査団の構成	1
第Ⅱ章	遺跡の立地と環境	
1.	地理的環境	1
2.	歴史的環境	1～2
第Ⅲ章	調査の成果	
1.	遺跡の概要	3～4
2.	遺構と遺物	5～8
第Ⅳ章	まとめ	8

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査にいたる経緯

中津市大字植野に所在する古田遺跡の発掘調査は、平成12年より実施している県道下時枝今津停車場線道路改良工事に伴う、事前の緊急発掘調査として実施した。平成12年度に県土木建築部から他の事業とともに分布調査依頼が県教育委員会文化課にあり、県文化課は分布調査を行い、本工区が遺跡存在の可能性が非常に高いため事前の試掘調査が必要な地区と回答した。これをうけて県事業担当部局の中津土木事務所は、用地買収などの条件整備の整った対象地区ごとに試掘調査の依頼を県文化課に行い、県文化課が平成13年1月に試掘調査を実施した。試掘調査は畑地であった対象地区用地に重機でトレンチを入れるかたちで行い、その結果本調査区の遺構を確認したため、本調査が必要との所見を得た。

本調査は、古田遺跡が平成13年5月10日～平成13年5月23日まで9日間実施した。

2. 調査団の構成

大分県教育委員会教育長	石川 公一
文化課長	工藤 正徳
参事兼課長補佐	麻生 祐治
同	清水 宗昭
主 査	高橋 信武
主 査	後藤 一重
主 査	甲斐 寿義
主 査	井川 泰成

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

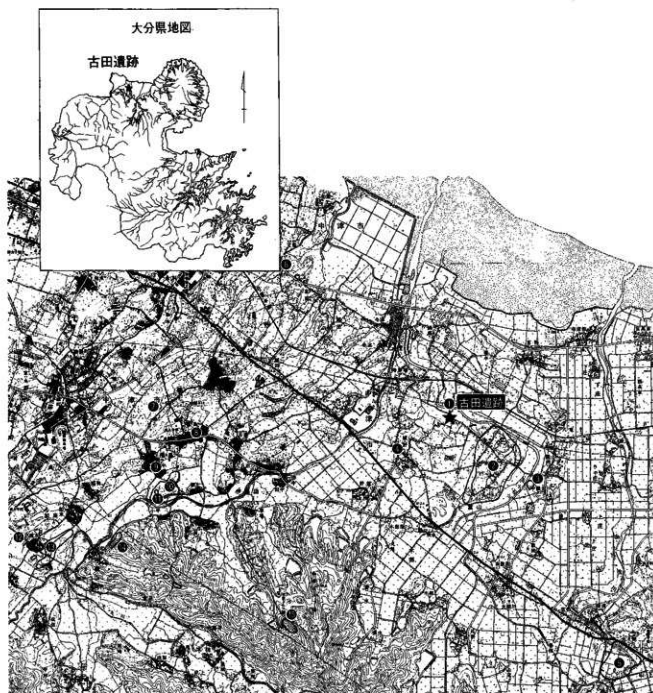
大分県北部に位置する中津市は北を周防灘に面し、東は宇佐市、南は下毛郡三光村、西に福岡県築上郡吉富村大平村に接している。人口67,013人、面積5,567km²、市の西南部には標高30mほどの下毛原丘陵が広がっている。また、山国川が西を北上し、福岡県との県境をなしている。さらに宇佐・豊後高田にかけて緩やかに長峰原台地、糸口原台地や宇佐台地が形成され、それらをぬうように犬丸川、五十石川、伊呂波川、駅館川などの中小河川が周防灘へ注ぎ、平野や、三角州、浸食谷が形成され古くから人々の生活に深い影響を与えてきた。

2. 歴史的環境

古くから人々は山国川や犬丸川沿い、それに下毛原丘陵上に遺跡を残している。旧石器時代の遺跡は少ないが、上ノ原遺跡では細石刃や剥片が出土、縄文時代は、遺跡の数は増大する。時期としては後期の遺跡が多いが、黒水遺跡は縄文早期の遺跡として落とし穴等を検出した注目される遺跡である。台地の縁辺部には貝塚が多く形成されている。代表的な遺跡は縄文後期の棒垣遺跡、集落と貝塚で構成された入垣貝塚、他にも植野貝塚、定留貝塚、槇遺跡などが下毛原台地縁辺部に位置する。

古田遺跡の東には五十石川流域にあたる宇佐市の富山遺跡や阿高系凹線土器が多く出土した西和田貝塚がある。また、山国川右岸自然堤防上にある佐知遺跡では縄文後期の堅穴住居が見つかっており、さらに海岸部に向かって高畑遺跡、高瀬遺跡、上万田遺跡も山国川の自然堤防上に展開する遺跡である。

古田遺跡の立地も長峰原地が海岸部へ延びた台地の縁辺部であり五十石川沿いである点では中津周辺の縄文時代の遺跡の立地と共通する点があるといえる。



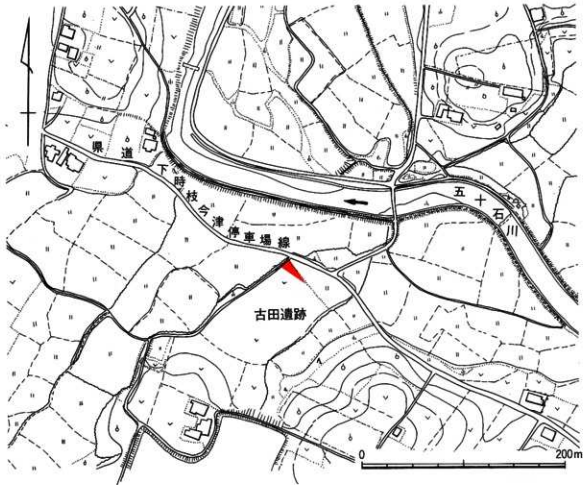
第1図 古田遺跡周辺遺跡分布図

- | | | | | |
|---------|--------|---------|----------|-----------|
| 1 古田遺跡 | 2 富山遺跡 | 3 西和田貝塚 | 4 植野貝塚 | 5 尾畑遺跡 |
| 6 和間貝塚 | 7 土木貝塚 | 8 長久寺貝塚 | 9 福島遺跡 | 10 ボウガキ遺跡 |
| 11 入垣貝塚 | 12 横遺跡 | 13 黒水遺跡 | 14 権現島遺跡 | 15 ゴンゲ遺跡 |

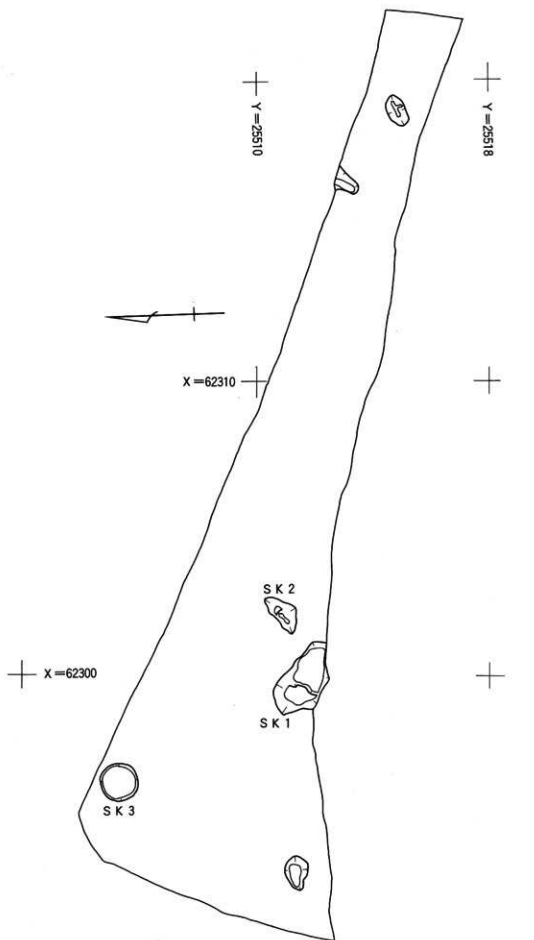
第三章 調査の成果

1. 遺跡の概要

古田遺跡は、中津市大字植野字古田に所在する。中津市北東部に位置するこの地区は、現海岸線から約2km内陸にある。そこは、五十石川が蛇行しながら西流する左岸、標高は6～7mで低丘陵の縁辺部である。現況は畑地である。調査面積は約100㎡で、小規模な遺跡であるが、本調査の結果土坑5基を検出した。そのうち2基からは縄文後期初頭の土器や姫島産黒曜石の剥片が出土した。特に土器を伴うSK1は焼土塊も伴っており、本遺跡でもっとも大きな遺構である。また、遺構外にも遺物が散布しており今回の調査区は狭い範囲であるが遺跡は周辺の丘陵部に広く展開する可能性が高いとみられる。



第2図 古田遺跡調査区位置図



第3図 古田遺跡遺構配置図 (1/130)

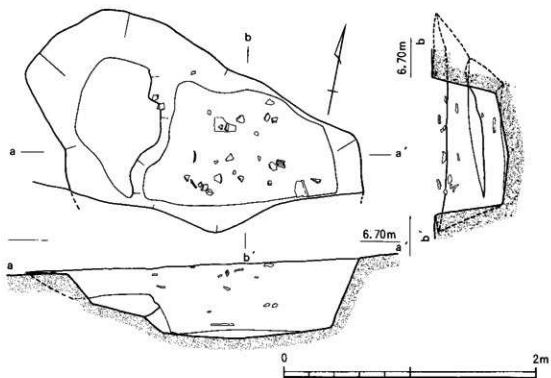
2. 遺構と遺物

ここでは遺物を伴う遺構のみを載せることにし、遺物は図示可能なものを掲載した。

SK 1

調査区の南寄りに位置し、遺構全体としては畑地のある南側に若干展開すると考えられる。現存長軸2.85m、短軸1.41mの不定形土坑で2段の掘り込みがあり、最深部では0.6mを測る。埋土には焼土と焼土塊を含み、下層寄りに広がる。土器の混入もみられた。

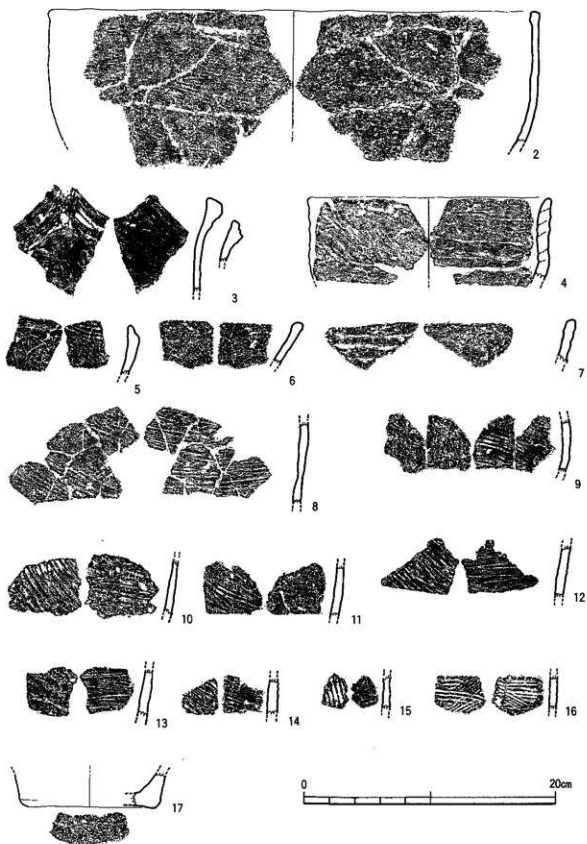
遺物の多くは土器小片で、縄文後期初頭の時期と考えられる。



第4図 古田遺跡SK 1実測図 (1/30)



第5図 古田遺跡SK 1出土遺物実測図1 (1/3)



第6圖 古田遺跡SK1出土遺物実測図2 (1/3)

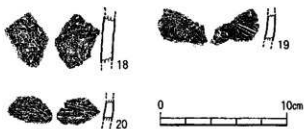
SK 2

土坑はSK 1の東側で検出した。

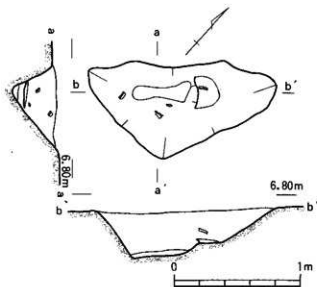
長軸1.53m、短軸0.72m、深さ0.36mで
検出面が三角形を呈する土坑である。

埋土中からは土器片が3点と黒曜石の剥
片1点が出土した。

土器はいずれも条痕紋が施された縄文土
器で、剥片は姫島産である。



第7図 古田遺跡SK 2出土遺物1 (1/3)

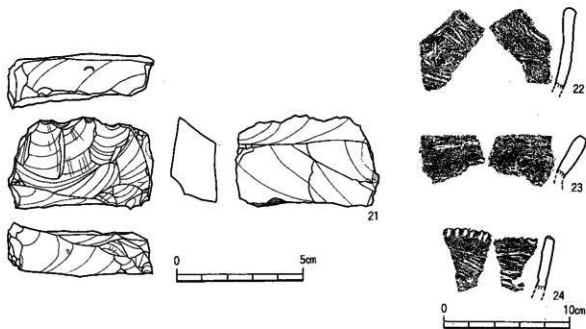


第8図 古田遺跡SK 2実測図 (1/30)

その他の出土遺物

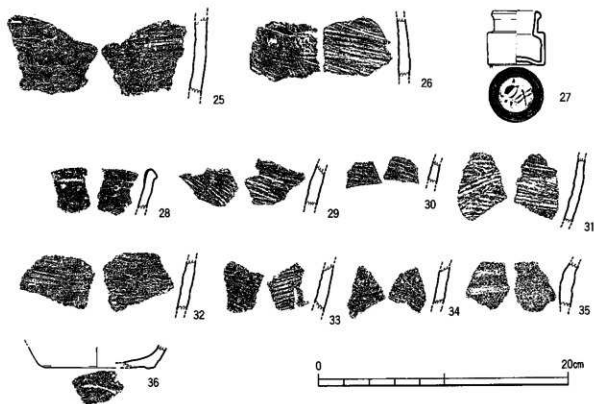
SK 3は三和土をめぐらした近代の遺構である。遺物は流れ込みの縄文土器やガラス製品などである。また、遺構外に散布していた遺物も数点載せた。

21は姫島産黒曜石で、厚手の剥片を素材とする石核。ほぼ直方体に近い長辺の一面を打面とし、幅広の剥片を連続的に剥離している。打面部には調整加工はなされていない。22~23は口縁部片である。突起部のみ粘土をつけ成形し、ヨコナデして仕上げている。22は外反し、23は阿高式系土器



第9図 古田遺跡調査区内出土遺物 (1/3)

で口唇部は貝殻肋縁で刺突した刻み目を有する。器面はいずれも二枚貝条痕紋を施す。27は、近代のガラス製品の化粧瓶である。底には桃にとまるトンボの絵があり、これは桃谷順天館の標で、煉り白粉の瓶として生産されたらしい⁽¹⁾。口縁部内面を擦りつぶしている。27から35は調査区内SK1からSK3の間に出土した土器である。これらも貝殻条痕紋が主である。



第10図 古田遺跡調査区内出土遺物 (1/3)

第四章 まとめ

古田遺跡が所在する低丘陵の先端部で、今回土坑5基を検出し、そのうち2基は縄文後期初頭の土器を伴うものであった。遺物は残存状況が良好とはいえず小片も多かったが、阿高式土器の流れをくむと思われるものや、コーゴ-松式の波状口縁を呈するものも含まれていた。

そこで遺構の配置や地形から遺跡の性格をみると、焼土塊をともなったSK1が調査区南端にあり、また縄文時代の海岸線を想定すると古田遺跡の立地場所は海岸にかなり近い場所で、付近には貝塚が、さらに後背の丘陵上には住居跡や生産的な遺構などが広がる可能性は非常に高いと思われる。その意味では今後とも埋蔵文化財に対して、周辺地域の試掘等新たな遺跡の確認に留意しなければならない。

(1) 高橋信武「炭竈遺跡」県道白丹竹田線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2000年 大分県教育委員会 第110輯

写 真 图 版

古田遺跡遠景



古田遺跡全景

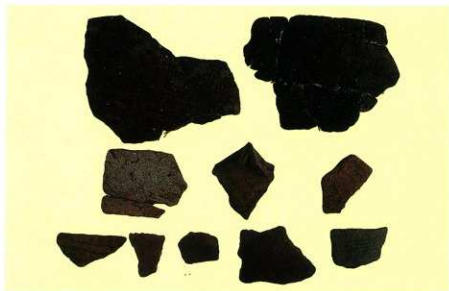




SK 1 遺物出土状況



SK 2 遺物出土状況



出土遺物

報告書抄録

フリガナ	フルタイセキ
書名	古田遺跡
副書名	県道下時枝今津停車場線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大分県文化財報告書
シリーズ番号	第157輯
編著者名	井川泰成
編集機関	大分県教育委員会
所在地	〒870-0021 大分市府内町3丁目10番1号 〒870-1113 大分市大字中判田ビワノ門1977番地 大分県文化財資料室
発行年月日	2003年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
古田遺跡	中津市 植野	44203	101131	33°	131°	平成11年5月10日 / 平成12年5月19日	100㎡	道路建設
				33′	16′			
	51″	27″						
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
		縄文時代 近代		土坑5基		縄文式土器		

古 田 遺 跡

県道下時枝今津停車場線道路改良事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成15年 3月31日

発行 大分県教育委員会

印刷 株式会社有明印刷